

平成19年度「基礎・基本」定着状況調査結果報告

はじめに

この調査は、『学習指導要領』に示されている目標及び内容に基づき、特に、「読み・書き・計算」などの基礎的な内容とともに、思考力・判断力・表現力などの定着状況や、児童生徒の生活や学習に対する意識や実態及び各学校における教科指導等の実態を把握することをとおして、各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図ることを趣旨としている。（教育委員会説明）』という趣旨で実施されたものである。

学力として、学習の結果として測れる「知識」・「思考力」・「技能面」については、2～4枚目の各教科の結果から見る事が出来る。また、それに至る授業態度・家庭学習などの「学習の仕方」や、一番の大元となる「学習への意欲」・「生活習慣」については、1枚目の生活面についての結果より考える。

「生活面の調査について」

右の表に、各質問に対し、前向きな回答をした生徒の割合のパーセンテージを、広島県・広島市・中広中学校について示している。現在の中学生一般の状況は広島県の結果から見る事ができ、それと比較することで中広中学校の特性も明らかにすることができる。

◎「生活などに関する調査」より

- ・全体的に、自己肯定感が弱く、友人関係を大切にする傾向がある。
- ・中広は、教師・家族との関係が良好な生徒が多いが、友人関係がやや低い。
- ・生活習慣の項目を細かく切って比較すると、テレビゲームを4時間以上したり、家庭で本を全く読まない、そして睡眠時間が6時間以内といった生徒の割合が県や市に比べ低い。

◎「学習に関する調査」から

- ・「学校は楽しい。将来に役立つと思って勉強する。自分で計画を立てて学習をしている」という割合が県・市に比べて高い。
- ・「分からないことを分かるまで努力する」という項目が低い。
- ・家庭学習時間が少ないのは全体的な傾向ではあるが、中広中は特に少ない生徒が多い。中でも、ほとんどしないという割合が高い。

◎「通過率ごとの割合」の結果より

- ・通過率が30%未満の生徒が、国語、数学では、県・市に比べて高い。
- ・通過率が80%以上の生徒が低い。英語は県の47%に比べて13%。数学も県の41%に対して25%と低い。

＜対策＞現状は厳しいのは事実であり、学校と家庭が協力して、生徒に勉強をさせたい。

- ・「授業作り」・・・授業の中で、それぞれの学力の者が参加できる場面をつくったり、生徒同士が教え合う土壌を作る。
- ・「ミニテストの継続」・・・各教科でミニテストを実施している。復習をすればほとんどの生徒が出来るような問題をやることで、基礎学力の定着をさせる。
- ・「終学活の利用」・・・基本問題をドリルし、学習習慣をつける。
- ・「補充」・・・時間的、人的に難しいが、長期休業中に希望者で実施。
- ・「家庭学習の定着」・・・基礎的な内容の復習が出来るように働きかける。自分に合った課題に取り組む習慣をつける。
- ・「基礎的な生活習慣の確立」・・・早寝、早起き、朝ご飯、ゲーム・携帯の制限、服装容儀の指導、不要物を持たせない・・・などなど、家庭で生徒の生活のリズムを作る。
- ・「情報交換」・・・全体へは通信による情報発信、個人へは電話・家庭訪問で連携する。